2021 新春「いのちの関り」のかたち

“One World, One Life” ～ひとつひとつのいのちに寄り添う社会へ～

公益社団法人Knots 理事長 冨永 佳与子

新年おめでとうございます。平素より温かいご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

昨年は、阪神淡路大震災から25年、私共、Knotsにとっても NPO法人設立からの20周年、公益法人認定10周年という節目の年でありましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、事業にも様々な影響がありました。

社会全体を見ても、経済活動の制限や働き方の見直し、医療体制確保の難しさ等々、人々を不安にさせるニュースが世間を揺るがしました。

実家に帰ることができない、施設や病院に面会に行けない等、家族の絆にも影響を及ぼしましたが、私たちひとりひとりが自分にできる感染予防対策を実行しながら、新しい生活様式の中で生きる力を身につけていきたいと思います。

このようなコロナ禍において、Knotsがこれからどのように歩んでいきたいかと考えた時、改めて私たち人間が「ヒト」という生き物であるという視点を忘れてはならないのではとの思いをひとつにいたしました。

Knotsがテーマとして掲げている“One World One Life”は、「ひとつの豊かな地球は、ひとつひとつのいのちの幸せを繋いでいくことで構築されていく」という意味で、まさに現在、世界の目標となっているSDGsの誰ひとり取り残さない社会を目指す上で必要な概念であると考えています。

SDGsの17の目標を見た時、人と動物の関わりについては、どの目標に入るのかとお考えになりませんでしたか？

ペットと一緒に暮らしていると、心も体も健康でいられる一方で、高齢のため充分なケアができない問題についての相談も寄せられることがあります。

「できれば自分で面倒を見たい」という飼い主の方の気持ちを汲み取り、どのような支援が可能なのかを考えることも、今後益々増えてくると予想されます。

人は生き物であるという視点から見れば、人と人との関わりもまた、人と動物の関わりのひとつだと考えられます。

さまざまな「いのちの関わり」の形がある中で、ひとつひとつのいのちに寄り添う社会システムの構築に向け、尽力して参りたいと思います。

今後とも、ご支援、ご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

頌春
2021
令和3年